

リウマチ・膠原病科

1) 研修スケジュール

月	9：00～ 病棟ミーティング		
火	9：00～ 病棟ミーティング	PM 新患外来研修あり	16：00～ 病棟カンファレンス
水	9：00～ 病棟ミーティング		
木	9：00～ 病棟ミーティング	14：00～ リウマチ教室（不定期）	14：30～ 病棟カンファレンス
金	9：00～ 病棟ミーティング		
土	1か月に2日は休み		

※出勤日は8時半までに出勤し、担当患者の回診を行い、主治医へ診察結果を報告して下さい。
※MCCやレジデントセミナーは必ず参加して下さい。
※希望に応じて、外来研修も可能です。

2) リウマチ・膠原病科における形成的評価のための項目

形成的評価のための項目		研修前	研修 終了時	指導医 記入欄
1.	UpToDateを利用して、日々の疑問点を解決できる。			
2.	関節炎患者の初期対応ができる。			
3.	不明熱患者の初期対応ができる。			
4.	免疫抑制患者の感染症の初期対応ができる。			
5.	ステロイドの使い方や副作用のマネジメントができる。			
6.	入院患者の便秘や不眠症の対応ができる。			

a=十分できる b=できる c=要努力 (3段階評価) / ?=評価不能

3) 経験できる疾患や手技

経験できる疾患・症候 ・関節炎を起こす疾患 関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、痛風・偽痛風、RS3PE症候群など ・全身性エリテマトーデス ・皮膚筋炎・多発性筋炎 ・全身性強皮症 ・シェーグレン症候群 ・成人Still病 ・血管炎症候群 ・自己免疫疾患に合併する病態： 間質性肺炎、肺高血圧症、急速進行性糸球体腎炎、眼症状、皮膚症状など ・ステロイドによる副作用の対応： 日和見感染症を含めた重症感染症、骨粗鬆症、糖尿病など ・希少疾患（自己炎症性疾患など）	経験できる手技 ・採血（動脈・静脈） ・血液培養 ・関節超音波 ・関節穿刺
---	--

リウマチ・膠原病科

4) 推薦書籍



難易度★★★

Evidence based medicineを活かす膠原病・リウマチ診療 (東京女子医編)
コメント

全般的なことが基礎から最新の知見まで書かれている。2020年に改定されました (第4版)。改訂前の第3版は病棟に常備しています。

・ Up to date (Wolters Kluwer社) :

日々の診療で利用します。必ずアカウントを作成してください。

・ 抗菌薬の考え方,使い方 ver.5 コロナ時代の差異 (中外医学社) :

抗菌薬の考え方は必須知識です。是非研修医の間に読破して欲しい本です。

その他の推薦図書は以下です ※☆マークは病棟に常備しています。

☆リウマチ病学テキスト 改訂第3版 (日本リウマチ学会編集)

☆リウマチ診療のための関節エコー撮像法ガイドライン (日本リウマチ学会編)

☆一冊できわめるステロイド診療ガイド (文光堂)

☆間質性肺疾患診療マニュアル (南江堂)

・ リウマチ・膠原病診療ゴールデンハンドブック (南江堂)

・ 体液異常と腎臓の病態生理 第3版

・ 米国式症例プレゼンテーションが劇的に上手くなる方法 (羊土社)

5) 事前アンケート

1. 学会や研修の予定 (他科も含む)、休み希望があれば教えてください。

2. どのような研修がしたいか希望があれば教えてください。(例; 典型的な症例を経験したい、シニアと同じように扱ってもらって研修したいなど)

3. 興味のある病態/臓器、将来進む可能性のある科があれば教えてください。

(リウマチ性疾患は多臓器にわたるので、臓器を絞って症例を担当したり、内科専門医のための症例を集めることも可能です)

6) 自由記載欄 (研修について要望などがあれば記載してください。)

--

7) 研修終了時、指導医との振り返り (必ず記載し指導医がセンターに提出)

できるようになったと思うこと (研修医記載)	不十分だったと思うこと (研修医記載)
できていると思うこと (指導医記載)	今後頑張ってほしいこと (指導医記載)
指導医氏名 (押印可) _____	
今後具体的にどんなことに注意して研修をしたいか ~次へのアクションプラン (研修医記載)	

研修医氏名 _____